

(様式3)

水源環境保全・再生かながわ県民会議 令和7年度第3回事業モニター報告書

事業名	間伐材の搬出促進				
	報告責任者 田島 聖一郎				
実施年月日	令和7年11月5日(水)				
実施場所	さがみはら津久井森林組合鳥屋施行地(相模原市緑区)				
評価メンバー	羽澄 俊裕、倉橋 満知子、増田 清美、牛島 則子、 田島 聖一郎、太幡 慶治、三好 秀幸、池田 宜弘、 齋藤 海、森本 利弘、古舘 信生				
説明者	神奈川県環境農政局緑政部森林再生課 神奈川県県央地域県政総合センター森林部森林保全課				
モニターのテーマ	間伐材の集材・搬出による持続的・自立的な森林管理にかかる実施状況等をモニターする。				
事業の概要	・ねらい 間伐材の搬出を支援し、有効利用を図ることで、森林所有者自らが行う森林整備を促進し、水源かん養など公益的機能の高い良好な森林づくりを進める。また、併せて、間伐材等の森林資源を有効利用することにより、民間主体の持続的・自立的な森林管理の確立を目指す。				
	・内容 (1) 間伐材の搬出支援 ① 支援内容 林道から概ね200m以内の範囲の森林を対象として、間伐材の集材、搬出に要する経費に対して助成する。				
	令和7年度 間伐材搬出促進事業標準単価				
	補助対象経費	伐採方法	質別	標準単価 (円/m <sup>3</sup> )	備考
	集材を伴 う場合 素材の造材、集材、 はい積、積込、運 搬、積卸に要する経 費	定性列状	材積単価	20,000	補助率 1/2
			重量単価	16,000	
		定性列状 (玉切 済)	材積単価	16,000	
			重量単価	14,000	
		群状帯状	材積単価	14,000	

			重量単価	12,000	
集材を伴 わない場 合	素材のはい積、積 込、運搬、積卸に要 する経費	—	—	6,000	補助率 1/3

## ②実績

平成 15 年には、4,000 m<sup>3</sup>にも満たなかった間伐材搬出量が、本事業の実施により、平成 28 年度に 26,342 m<sup>3</sup>となり、計画数量である 24,000 m<sup>3</sup>を超えた。その後、素材生産業者の能力向上もあり間伐材搬出量は順調に推移し、第 4 期 5 年計画からは搬出計画を近年の実績を鑑み 26,000 m<sup>3</sup>へと上方修正を行ったが、この計画数量も継続的に達成している。また、県全体の木材生産量も、目標とする年間 30,000 m<sup>3</sup>を平成 28 年度に超え、それ以降も、概ね 30,000 m<sup>3</sup>を維持している。

間伐材搬出事業の生産量と県木材生産量について

計画期	年度	搬出事業における実績 (m <sup>3</sup> )	県木材生産量 (m <sup>3</sup> )
—	H15	—	3,368
第 1 期	H19	6,033	10,916
第 2 期	H24	13,657	19,300
第 3 期	H29	24,262	29,435
	H30	25,244	29,964
	R1	24,475	29,727
	R2	27,178	33,036
	R3	25,370	29,336
第 4 期	R4	27,082	30,210
	R5	29,186	33,618
	R6	28,477	34,148
	R7		
	R8		

## (2) 生産指導活動

### ①支援内容

搬出事業者等に対する造材・仕分け指導、生産効率の高い搬出方法の普及定着を図るための生産効率調査・検証、搬出事業者と製材工場等との需給調整の仕組みづくり・運営を行う経費に対して補助する。

### ②実績

	目標 (5年間)	R4	R5	R6	R7	R8	計
実施箇所	50	12	8	11			31

評価結果	評価点
<p><b>共通項目</b></p> <p>① ねらいは明確か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業のねらいは森林資源の有効利用を促しながら、目的とする水源涵養機能を高めていく事にある。森林資源の単純な搬出ではない所に、間伐材搬出促進の難しさが伴う。そこをねらいは明確に示していると評価した。</li> <li>○ 補助金があることによって林道付近では間伐材の搬出が促進されていると思う。補助金がなければ搬出されていないと思う。</li> </ul> <p>② 実施方法は適切か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 間伐材搬出の効率化を図るための事業経費と、間伐材を売って収益を得るまでの仕組み作り、運営、それに関わる人材育成などに対する助成を行っており、実施方法は適切と考える。</li> <li>○ 補助することで現状を維持することが出来るが、木材の需要や人件費の上昇に対して効果的ではないように思う。適切な循環にならない限り、補助金頼りになると思われる。</li> </ul> <p>③ 効果は上がったか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 間伐材が搬出しやすい場所を設定し、重機を多用して効率化を図り、搬出量は20年前と比べて約6倍となっていて、効果は上がっている。</li> <li>○ 木材生産量の増加から、効果は上がっていると思われるが、補助頼りになっていると感じる。</li> </ul> <p>④ 税金は有効に使われたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 搬出促進事業により、県木材生産量が目標値を越えて達成され、水源涵養機能を発揮できる森林と下層植生の草が拡大したのだから、税金は有効に使われたと判断した。</li> <li>○ 神奈川県では、林業事業者に搬出補助金が有効に活用されていて、高価な林業機械のレンタル料も生産指導活動事業費によって補助されていて恵まれている。しかし、民間主体が持続的・自立的な森林管理の方向に向いているかどうかは疑問である。</li> </ul> <p><b>個別項目</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>【間伐材の搬出促進】</b></li> <li>・ 現地視察させていただいた現場は、林道からも近く、また比較的平坦で、グラップルやハーベスタ等を使用することで効率的に行われており、比較的恵まれた現場だと思う。ただ、神奈川県は急峻な地形が多く、他地区の現場の状況が気になった。</li> <li>・ 現在は税金からの補助で事業が成り立っている。将来もこれで良いの</li> </ul>	<p>5点（8名）</p> <p>4点（2名）</p> <p>3点（1名）</p> <p>5点（5名）</p> <p>4点（4名）</p> <p>3点（1名）</p> <p>2点（1名）</p> <p>5点（4名）</p> <p>4点（7名）</p> <p>5点（3名）</p> <p>4点（5名）</p> <p>3点（2名）</p> <p>2点（1名）</p> <p>5点（1名）</p> <p>4点（4名）</p> <p>3点（2名）</p> <p>2点（1名）</p> <p>1点（1名）</p> <p>評価不能1名</p>

<p>か。水源森林を維持管理する民間事業への積極的な自立支援が更に必要ではないか。</p> <p>○【シカ対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とくに定量間伐（帯状、群状、列状間伐）は、一定範囲を皆伐していく方法であるため、跡地には下層植物が生えて、シカの食物が生産される。周囲を樹林に囲まれてすぐに逃げ込めることも、餌場として好適な条件となっていることから、放置すればシカの栄養条件が高まり、増殖につながる。このことは税を投入してシカを減らしていることと相反する。伐採跡地を柵で囲むことは間伐事業の必須作業項目とすべき。</li> <li>・この事業で植生回復しても、シカ被害などあり、他事業と連携した対応も必要。</li> </ul>	<p>未回答 1 名 重複あり</p>
<p><b>総合評価</b></p> <p>○ 森林資源の木材を効率的に大型の機械を使って切り出す他県の事例は、本県では適用できない。県東部のまとまって住む県民に毎日良質な水を届ける水源林での間伐材搬出作業だからである。小さな機械では搬出能力も小さく効率も悪いが、別の見方をすれば水源涵養機能を持つ樹間下草を樹の根を傷めないで済む。水源涵養機能を低下させないように気遣いをしながらの作業で年間目標値を越えているのは高く評価して良いと思う。</p> <p>○ 豊かな森林を育てていく目的は、神奈川県の場合、水源涵養機能を重視し、きれいで豊富な水を都市部に供給していくことに重点が置かれている。都市部に住む多くの納税者の税金によって山間部の森林が整備され、その恩恵が水の供給という形で都市部の住民にも行きわたり、好ましい循環が維持されているのは、神奈川県を誇るべき施策のお陰であると思っている。その一方で、林業の目的の一つである搬出された木材を利用する方向がはっきりしていないように見える。搬出された木材がどのように活用されているかが見えないことから、この事業の評価を難しくしている。</p>	<p>5 点（2 名） 4 点（6 名） 3 点（2 名） 2 点（1 名）</p>

▼現場視察の様子



▼意見交換の様子



▲現場視察の様子

令和7年度第3回事業モニター評価一覧  
(間伐材の搬出促進)

1 共通項目

「事業のねらいは明確か」

評価者	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
羽澄	明確である。	5
倉橋	間伐材を資源として利活用するのはよい。	5
増田	森林の健全を維持するための間伐および間伐材搬出を促進することは明確と言える。	4
牛島	民間主体の持続的・自立的な森林管理の確立は大変重要な課題であり、そのために事業費を補助するというねらいは明確である。	5
田島	明確である。	5
太幡	事業のねらいは森林資源の有効利用を促しながら、目的とする水源涵養機能を高めていく事にある。森林資源の単純な搬出ではない所に、間伐材搬出促進の難しさが伴う。そこをねらいは明確に示していると評価した。	5
三好	公益的機能の高い持続可能な森林づくりのため、「資源循環ゾーン」で間伐材の搬出を促進する本事業のねらいは、明確である。	5
池田	補助金があることによって林道付近では間伐材の搬出が促進されていると思う。補助金がなければ搬出されていないと思う。	4
齋藤	それとなく明確である。持続的・自立的な森林管理とあるが、現在の日本全体で見ると実現が難しいと考えられる中、このような狙いは明確にしていると言えない。	3
森本	水源かん養機能を高める森づくりのために、間伐材の搬出支援を行い森林整備を促進する目的は明確である。	5
古舘	間伐材の搬出を支援し、森林整備を促進して、水源涵養機能の高い森林づくりを進めて、森林資源の有効活用を図る狙いは明確である。	5

「実施方法は適切か」

評価者	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
羽澄	適切である。	5
倉橋	今回の場所は搬出しやすい場所でもあり、重機の活用も適切。	5
増田	間伐の状況を目の当たりにしたが、危険性を感じることなく安全に作業が行われ、適切に伐採していた。	4
牛島	間伐材搬出の効率化を図るための事業経費と、間伐材を売って収益を得るまでの仕組み作り、運営、それに関わる人材育成などに対する助成を行っており、実施方法は適切と考える。	4
田島	適切である。	5
太幡	現場は、単に木材生産を目的として切り出す森林ではなく、間伐をしながら同時に水源涵養機能を持つ他の樹木の根を傷めない必要がある。重い大型作業機械を入れることは難しい。軽い機械を使って間伐をしている方法は生産と周りの樹木を傷めない両立を狙った実施方法であり、適切と言える。	5
三好	民間を対象にした間伐材搬出作業及び生産指導への補助が中心だが、本事業の対象となる間伐現場決定の優先順位の考え方を明確にする必要がある。	3
池田	間伐材を搬出することを目的とすれば、搬出作業に補助金をあてることは適切だと思う。	4
齋藤	補助することで現状を維持することが出来るが、木材の需要や人件費の上昇に対して効果的ではないように思う。適切な循環にならない限り、補助金頼りになると思われる。	2
森本	間伐材搬出促進の事業で、集材／搬出／運搬および生産指導を環境配慮して実施している。	5
古舘	人間の手に依存した間伐、造林作業がハーベスタ、プロセッサの導入が進み、搬出にはグラップル、フォワーダーなどが活用されて機械化が進んできたが、林業事業体全体に機械化が及んでいないと言えない。	4

「効果は上がったか」

評価者	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
羽澄	着実に上がっている。	5
倉橋	条件が整っていて効果はあると見える。	5
増田	伐採することによって木々の密度が減り、十分な太陽光が差し込み、成長した木々が間伐材として利活用できるメリットもある。	4
牛島	間伐材が搬出しやすい場所を設定し、重機を多用して効率化を図り、搬出量は20年前と比べて約6倍となっていて、効果は上がっている。	4
田島	上がっている。	5
太幡	大きい作業機械を用いて、帯状に間伐する他県の間伐材搬出作業とは意味が違う。大都市の水需要を賄う水源涵養機能を持つ森林の間伐材搬出なのだから、必要以外の樹を傷めないように大型機械は入れられない。間伐材搬出効率は、他県と比べたら頭打ちとなる。その様な状況下でも搬出事業における実績は年間28,477 m <sup>3</sup> で、木材生産量は34,148 m <sup>3</sup> と目標値を越えている。間伐材搬出促進事業として目標値を越えているのだから効果が上がったと判断した。	5
三好	木材生産量の増加から、効果は上がっていると思われるが、補助頼りになっていると感じる。	4
池田	搬出量は増え、搬出技術も向上していると思う。	4
齋藤	少しの効果はある。高性能林業機械の導入が進み、より効率化が進んでいるので経費の減少や搬出量の増加がある。	4
森本	放置された森林が、本事業により適切に間伐することで、植生回復も見られ、水源かん養機能の向上の効果は見られる。	4
古舘	神奈川県の木材生産量は20年前に比べると格段に進歩してきたが、全国レベルの労働生産性からみるとまだまだ低い。一方で、木材利用面からは搬出された木材は無駄なく何らかの用途の活用がされているとの事である。	4

「税金は有効に使われたか」

評価者	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
羽澄	有効に使われている。	5
倉橋	補助金なしで、利益換算ができると良いが。	3
増田	有効的に使われていると思われる。	4
牛島	間伐材搬出量の実績から見て、税金は有効に使われていると考える。	4
田島	使われている。	5
太幡	搬出促進事業により、県木材生産量が目標値を越えて達成され、水源涵養機能を発揮できる森林と下層植生の草地が拡大したのだから、税金は有効に使われたと判断した。補助金も民間事業が持続的に維持され展開されるように支えたという事業者の声、使われている機械の状態を見て「水源涵養機能維持のために税金が有効に使われた」と判断した。間伐材搬出機械の更新が継続的になされていけば、民間事業者の持続的・自立的な森林管理の確立という観点での証明となるので県の担当部署では引き続き、状況把握をして県民に知らせて欲しい。	5
三好	木材生産量が計画どおり進んでいることから、有効に使われていると考える。ただ、持続可能な事業とするためには、継続した県の支援が必要である。	4
池田	実際に搬出が促進されている。	4
齋藤	あまり有効的ではない。需要自体が少なく、民間事業者が補助金ありきの働きになっている。このまま林業を残すことが本当に必要か考え直すほうが良いと思う。	2
森本	すべてを税金で実施ではなく、活動の主体は民間業者であり、それを支援する形態。税金に頼らない健全な森林の維持が課題と感じた。	3
古舘	間伐材を搬出するために搬出補助金が活用されている。神奈川県では、林業事業者に搬出補助金が有効に活用されていて、高価な林業機械のレンタル料も生産指導活動事業費によって補助されていて恵まれている。しかし、民間主体が持続的・自立的な森林管理の方向に向いているかどうかは疑問である。	4

## 2 個別項目（任意）

評価者	項目	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
羽澄	シカ対策	とくに定量間伐（帯状、群状、列状間伐）は、一定範囲を皆伐していく方法であるため、跡地には下層植物が生えて、シカの食物が生産される。周囲を樹林に囲まれてすぐに逃げ込めることも、餌場として好適な条件となっていることから、放置すればシカの栄養条件が高まり、増殖につながる。このことは税を投入してシカを減らしていることと相反する。伐採跡地を柵で囲むことは間伐事業の必須作業項目とするべき。 山全体のシカを減らす作業は重要であるものの、個体数が減っても好条件の場所にはシカが集まる。この性質を利用して、間伐跡地をシカの捕獲場所に設定して粛々と捕っていくという考え方もある。ヨーロッパでは、伐採跡地や牧草地にやぐら（ハイ・シート）を建てて、待機して撃つという方法はスタンダードである。	-
倉橋	間伐材搬出の自立	水源環境税導入前は、神奈川の林業は成り立たっていなかった。20年が終わりになるが、この水源環境税の補助金なしで材の搬出がどれだけできるのだろうか。林業従事者は口を揃えて無理と答える。補助金漬けは果たして林業従事者の自立に役に立つのか、疑問に思う。今は必要だが、今後自立の道へと導くことを目指すべきと考える。	3
牛島	間伐材搬出	今回、重機を使っての作業を見学し、伐採、玉切り、集材までの作業効率が非常に上がったことを確認できた。今後も効率化を促進し、搬出量を増やす必要がある。また、間伐材利用を拡大し、事業の確立を目指す必要がある。	4
田島	間伐材の搬出促進	チェーンソー作業と重機操作等、一人が複数の技能をもつ「多能化」が進んでいる。人財育成の面からも多能化は今後も積極的に進めていただきたい。	5
太幡	間伐材搬出の民間事業の自立支援	県産木材の木材単価を見ると、補助率50%出さなければ収支が合わない現状が良く分かった。県産木材を利用して建てる木造住宅も多くない。需要と供給の関係で価格も変動して、民間主体の持続的・自立的な森林管理が難しいという。現在は税金からの補助で事業が成り立っている。将来もこれで良いのか。水源森林を維持管理する民間事業への積極的な自立支援が更に必要ではないか。	4
三好	現地の実態	現地視察させていただいた現場は、林道からも近く、また、比較的平坦で、グラップルやハーベスタ等を使用することで効率的に行われており、比較的恵まれた現場だと思う。ただ、神奈川県は急峻な地形が多く、他地区の現場の状況が気になった。	4

評価者	項目	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
池田	事業の目的	間伐材の搬出促進する目的を森林所有者の自立的な森林経営とするのであれば、目的は達せられておらず、今後も達成は難しいと思う。間伐材の有効活用ということであれば目的は達せられると思うが。森林所有者の自立的な森林経営を目的とするのであれば、別の補助が必要だと思う。	3
齋藤	搬出支援	木材を搬出することに対しての補助金はあるが需要に対して適切ではなく、外国産の構造材と比べ金額が高く供給の安定性がない。補助金で木材を搬出しているがその後の経路が安定していない。それに関わらず搬出を行い品質が良いものが多いわけでもない事にお金を数十年かける事が良いのか今一度検討すべきだ。また民間事業者の意欲や技術が適切なのか？森林組合という組織が必要なのか？今後のためにも切り捨てることも考慮し計画を見直すべきだ。	1
森本	シカ	この事業で植生回復しても、シカ食害などあり、他事業と連携した対応も必要。また、帯状間伐のときなど、間伐方法によっては、その後のシカ対策も考慮した対応が必要である。	2
古舘	林業機械の導入による効率化	近年、神奈川県の実業事業者（森林組合、民間事業者）に高性能林業機械（造林・集材にはハーベスタ、プロセッサ、タワーヤーダ、運搬にはグラップル、フォワーダなど）が活用されてきた。規模の大きな林業事業者では木材生産量が多いので事前にこれらの林業機械を所有することが出来るが、規模の小さな林業事業者ではレンタル料を払って使用することにより、機械化が進んでいると聞く。 今回、現場をモニターした相模原市緑区鳥屋地区の財産区には、さがみはら津久井森林組合が長期施業委託として施業を行っていて、4m長に自動的に造林できるハーベスタやウインチ付きグラップルをうまく使いこなしているのを拝見して感銘を受けた。この森林組合でも令和元年以降搬出事業実績が増加しているのは機械化が進んだためだと想像した。 しかし、神奈川県の実業生産性は全国平均の約1/2程度にとどまっているようで気になるところである。水源涵養機能を損なわないように間伐していて効率を犠牲にしているのか、あるいは他県は皆伐を主流としている違いなのか意見交換会の場で質問しなかったのが分からないが、林業技術が他県よりも低いのだとしたら改善を図る必要があるのではないか？	4

### 3 総合評価

評価者	評価	評価点
羽澄	生産指導活動は興味深く聞いた。将来の森林管理の実行体制のことを考えれば、林業技術者の後継者を増やすことはきわめて重要である。林業塾で技術訓練をしていくこととあわせて、林業を本職として生活していけるだけの経営の体制を組み立てることは重要な課題と思われる。林業技術者がいなくなれば、水源の森も、丹沢の生物多様性も維持できなくなる。あるいは災害時からの復旧もできなくなってしまう。そのことに向けた、より積極的な政策的議論が必要ではないか。	4
倉橋	林業を目指す若者にとってやりがいと収入のバランスが必要である。間伐材が適正に売ることがないと補助金なしの林業は成り立たない。日本の唯一の資源である森を使い方次第で、自立できる資源になり得ると考える。自立の道への森づくりを目指して欲しい。	3
増田	間伐材搬出事業は重量物を扱うので、危険を伴うこともあると思うが、当日現場で行われていた作業を見ていた限りでは、安全面に十分配慮しながら慎重に作業している様子が覗かれた。	4
牛島	実際に重機で作業する所を見学でき、作業効率が上がったことを確認した。森林保全が第一義ではあるが、より効率を上げて、間伐材の利用を促進できるよう民間事業者への助成も続けてほしいと思う。	4
田島	・A, B材だけでなくC, D材もバイオマス発電用燃料として活用したり、搬出先は秦野よりも近隣の津久井貯木場を整備するなど、神奈川県内で林業がうまくまわるしくみ作りができています。 ・当該現場は宮ヶ瀬湖のすぐ上流にあり、まさに「水源林」である。水源林上流の保全は非常に大切であることを実感した。	5
太幡	森林資源の木材を効率的に大型の機械を使って切り出す他県の事例は、本県では適用できない。県東部のまとまって住む県民に毎日良質な水を届ける水源林での間伐材搬出作業だからである。小さな機械では搬出能力も小さく効率も悪いが、別の見方をすれば水源涵養機能を持つ樹間下草を樹の根を傷めないで済む。水源涵養機能を低下させないように気遣いをしながらの作業で年間目標値を越えているのは高く評価して良いと思う。	5
三好	間伐材搬出促進事業としては、木材生産量も計画通り達成し、効果をあげている。また、木材生産の効率化の調査や指導なども行い、林業に寄与している。しかし、神奈川県は、森林面積や生産量が小規模であり、また地形も急峻な所が多く、効率的に森林管理を進めるには多くの課題がある。継続した補助や支援がなければ、生産量は減少し、民間主体の持続的な森林管理や難しくなる。 県民の理解を得るためには、SNS等での神奈川県の森林の役割、木材生産の考え方、間伐作業の実態、間伐材の活用などの発信や、イベント等でのわかりやすい説明などが必要である。	4

評価者	評価	評価点
池田	この事業により搬出技術が向上し、搬出量が増え、間伐材の搬出を促進するという目標は達せられている。搬出効率では地方で皆伐などやっているところにはかなわないが、水源施策として皆伐を取り入れられない点も理解できる。神奈川県のように潤沢な財源があれば現在の搬出効率でもなんとか成り立つが、これがなければ皆伐して効率をあげなければ事業として成り立たないところが多いのではないだろうか。だとすると現状の森林経営の仕方をしていては補助金がなくなったら皆伐をするか整備しなくなるかということになってしまうのではないだろうか。整備が進み、更新が増え、植え替えしたらまた人の手を入れていかないと荒れた山になってしまうので、本質的に現状の森林経営のやり方がこの神奈川県の地域性を含め適切なのかみんなで議論していても良いのではないかと思う。	4
齋藤	搬出した木材の立米数は高くなっているが、品質の安定性や単価の問題はないのか疑問に思う。補助金によって搬出材積は増えても、その木材の価値が低ければ税金の有効性があるように思えない。実際、神奈川西部での木材の単価は虫食いの影響のため低く、補助金の割合も低いがこの木材を搬出する必要があるのかを根本的に見直すべきだと思う。森林の所有者の怠慢が影響している地域もあり、法律の見直しや自然の形に戻す取り組みに移る方が今後の管理費などの金銭は必要なくなり、他の森林に対する活動にあてることが出来るようになる方が有効である。調査や取り組みはとても感心している。数値として伸びているので悪い結果ではない。ただ目標が高くそれに対して神奈川の林業は目標に対しとても遠い位置にいる。取り組みはとても良いので、他の事にその力を注いでいただきたい。	2
森本	今回モニターした箇所は、昭和初期まで手入れされていたが、その後、放置されていたスギ／ヒノキ林である。水源保全地域の森林に対して、間伐材搬出支援や生産指導を行うことで、植生回復の効果がでていることが、モニターでも確認できた。また、作業道の設置（林野庁の基準より少し狭く）や環境配慮指針（動植物や隣地への配慮、地形への配慮、安全衛生、法令遵守等）を定めて、生産指導などを展開している。今回モニター箇所では、間伐できる機材搬入の箇所だけでなく、作業道が設置できない急勾配の箇所、機材が届かない箇所も、切り捨て間伐により水源保全の作業は実施されていた。現時点の間伐材は低いランクの材質であり、森林業者も採算が合わない状況である。理想は税金による支援なしで、民間企業による間伐が適切に行えることであり、その循環が回るように流通や市場を含めた対策検討も必要だと感じた。	3

評価者	評価	評価点
古舘	<p>豊かな森林を育てていく目的は、神奈川県の場合、水源涵養機能を重視し、きれいで豊富な水を都市部に供給していくことに重点が置かれている。都市部に住む多くの納税者の税金によって山間部の森林が整備され、その恩恵が水の供給という形で都市部の住民にも行きわたり、好ましい循環が維持されているのは、神奈川県を誇るべき施策のお陰であると思っている。</p> <p>その一方で、林業の目的の一つである搬出された木材を利用する方向がはっきりしていないように見える。搬出された木材がどのように活用されているかが見えないことから、この事業の評価を難しくしている。確かに、アウトプットとして木材生産量が増加し、搬出木材量が増加していることから税金は有効に活用されていると評価されるが、アウトカムとして何を成果とするかが十分に議論されていないように見えるのである。他県の森林県が木材の活用に力が入っているのに比べて、神奈川県の場合には木材生産量も少ないので仕方ない面もあるが、この部分を令和9年度から始まる新たな施策の中で、国の森林環境税との関係に絡めて、位置づけをはっきりさせて欲しい。</p> <p>森林事業体の側から見た成果（搬出補助金によって経営が維持されている実態）はそれなりに見えるので、全体的に4と評価する。</p>	4